

# 中支紀行

特240

11

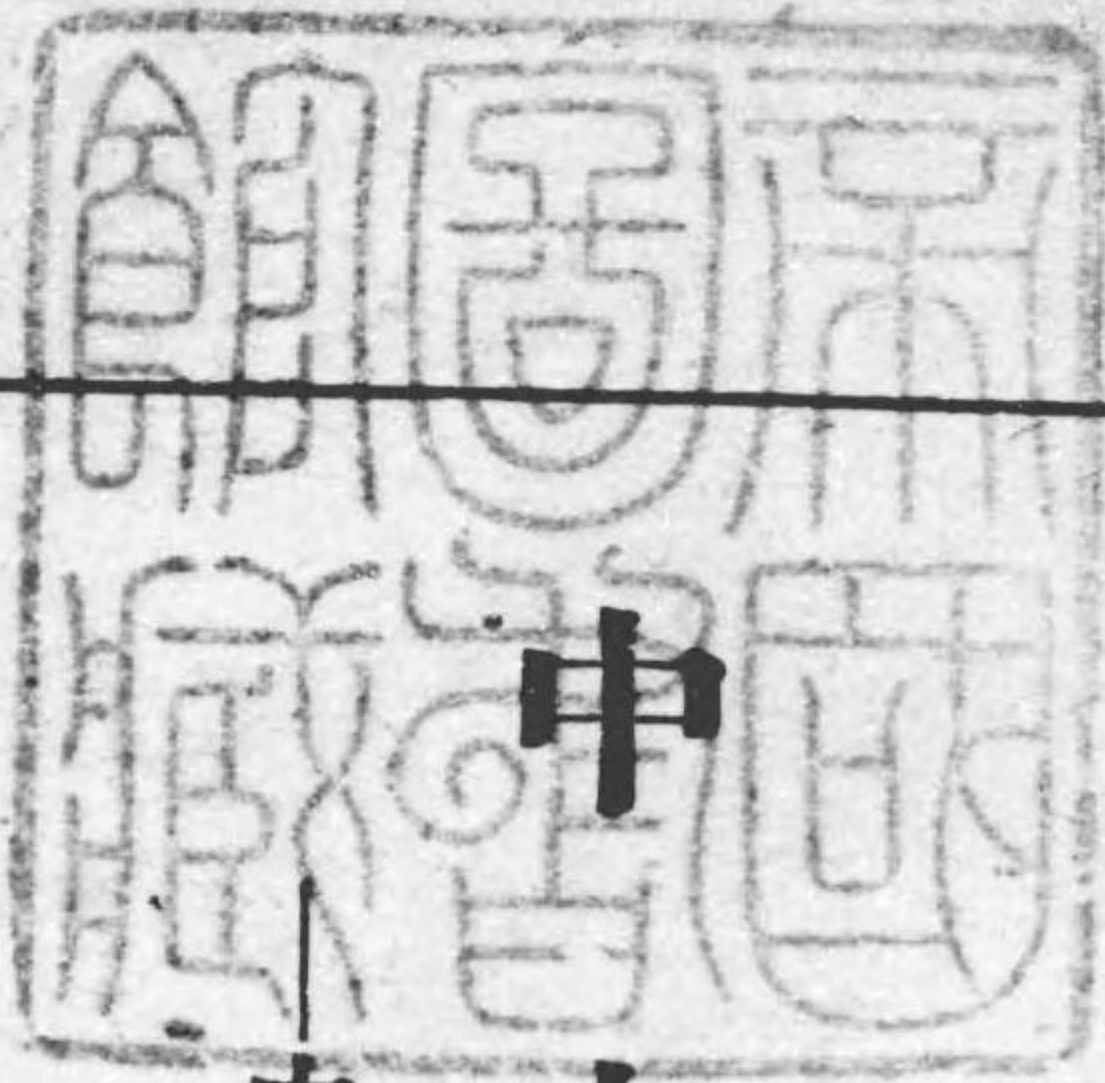
衆議院議員水笠原八美  
中支派遣皇軍慰問報告書



# 始



特240  
11



申  
支  
紀  
行

中支派遣皇軍慰問報告

衆議院議員 小笠原八十美



目次

三度目の皇軍慰問……………(一)  
長崎で船を待つ……………(三)  
長崎から上海へ……………(五)  
大東亞戦争後の上海……………(八)  
性格風貌一變の上海……………(一二)  
戦争と角力に強い青森兵……………(一五)  
第一線から引揚兵を迎ふ……………(一八)  
支那人の清郷工作……………(二一)  
東洋のベニス蘇州……………(二四)  
徐州の戦跡を訪ふ……………(二七)  
南京で汪主席と會見……………(三一)  
上海の種々相……………(三七)  
支那で氣を吐く縣人……………(四〇)  
長期戦と對支政策……………(四二)  
支那に對する再檢討……………(四五)

### 三度目の皇軍慰問

支那事變が勃發してから、私は衆議院より皇軍慰問使として派遣されること三回である。第一回は昭和十三年の夏、即ち六月から七月にかけて、ソ満國境に行き、北滿各地の皇軍將兵を親しく慰問し、歸途、北京・天津地方を視察して來たことがある。

その翌十四年、矢張り六月から七月にかけて南支方面へ特派された。廣東を中心とし、附近に作戦中の皇軍將兵を親しく慰問したのであるが、酷熱猛暑の南支方面しかも海南島の如きも、未だ殘敵掃討中であつたし、歸途立寄つた香港が、ユニオン・ジャックの旗に蔽はれて、われわれを白眼視してゐた當時の印象は、今尙私の心に深くこびりついてゐる。

今度は三度目の慰問行脚であり、行先は矢張り支那大陸であつても、大東亞戰爭勃發以來初めて行つたので、前二回とは甚だしく氣分を異にしてゐたのである。

例へば海を渡るにしても、敵潜水艦の執権なるゲリラ戦といふことを考へなければならぬ。之は大東亞戦争勃發以來の變化である。御承知のごとき赫々たる大戦果をちさめてゐるとは雖も、現に近海航路ですらもちびやかされてゐるではないか。将棋でいへば、王様を詰めるには、歩や桂馬、或は金銀の持駒を犠牲にしなければならぬのであるから、これだけの雄大なる作戦において、わが方においても多少の犠牲は餘儀ないこと、かねがね覺悟の前ではあるにしても、さて、われらの行路にその禍がふりかゝつて來やしないかを慮へば、決して氣持のよいものではない。結果においては、極めて順調な旅行をしたのであつたが、内地の土を踏むまでは、正直のところ、前二回とは全く異つた悲壯な覺悟と緊張味をもつて慰問旅行をしたのであつた。

さて、今回中支派遣皇軍慰問使として衆議院から特派された一行は、私の外に清水留三郎（群馬縣選出）山口馬城次（大分縣選出）長井源（三重縣選出）小坂武雄（長野縣選出）の五議員で、他に隨員として守衛副長鈴木質君が同行し、清水君が

團長で私が理事であつた。

### 長崎で船を待つ

一行は九月十六日先づ宮城を遙拜し、明治神宮・靖國神社を參拜して東京を出發翌十七日午後三時三十分長崎驛に到着した。驛頭には長崎控訴院檢察長徳永永吉氏が出迎へて呉れ、上野屋旅館に投宿した。

船は都合によつて二十日出發となつたので、長崎では二日ばかりの閑暇を得た。十八日は徳永檢察長の案内を受けて諏訪神社に參拜した。諏訪神社は長崎市内の西山町に鎮座する國幣中社で、武御名方命・八坂刀賣命を奉齋するのであるが、うやくしく玉串を奉奠して海路安全、使命達成するやう祈願をこめ、次いで縣立圖書館へ行つて、増田館長から切支丹文化に關する史實の話を聴いたり、藏書を閲覽したり、國寶大浦天守堂に詣で、歸途三菱造船所に立寄つて計畫造船の話を聴き、長崎ホテルに於ける山内知事招待の午餐會に臨み、午後二時半長崎を立つて國立公

園雲仙嶽に向つた。

有名な雲仙國立公園は島原半島の中央部に聳立する集成火山たる雲仙火山群の領域約一萬三千町歩を占め、最も高いのは四千四百八十五尺の普賢嶽で、容姿様々なるこれら火山群峰が一大臺地を構成し、山間山腹には草原美に富む高原があり、溪谷、瀑布、池沼がその間に點綴され、公園の中央部は温泉地帯をなしてゐる。しかも海岸地帯にいたれば風光明媚の地多く、氣候温暖なるため、四時を通じて探勝し得るといふのがこの公園の特色である。

上海に近い關係から、會ては外人の來遊も多く、従つて外客吸集の各種の施設があり、妙見岳麓のゴルフ場なども、一時は相當賑つたさうだが、大東亞戰爭以來外人客はめつさり見えなくなつてゐるといふ。

雲仙觀光ホテルに一泊せる我等は、十九日午前十一時ホテルを出發、島原を經由して切支丹一揆の古戰場を車窓に望見して、往時を追想しながら長崎に戻り、午後五時上野屋旅館に投じた。

長崎では熱帯病たるデング熱病の流行騒ぎで大いに驚かされた。この病氣に罹つたもの五千人以上もあり、現に縣警察部長も罹つてゐるといふ話だ。原因はマラリアの如く蚊の媒介によるとのことだつたから、われ等も蚊の要心で大騒ぎをしたものだ。

## 長崎から上海へ

二十日愈々長崎港を出帆するといふことになつた。我々の乗つた神戸丸は八千トン。空はドンヨリと曇つてゐる。船が港外に出ると共に、神戸丸の櫻井事務長から色々注意事項の説明があつた。この事務長は、先般沈没せる長崎丸の事務長だつたといふ。まづ冒頭にその話を聞いた時、乗客一同すつかり度膽を抜かれ、穴のあく程事務長の顔をみつめ、固くなつて彼の話を聞く。「私は當時の體驗から皆様に御注意する」といふのであるから、話が真に迫るものがある。

航路は相當危険區域であるから、第一に救命器の着方について、直ちにボーイか

ら教へて貰つてよく覚えて頂きたい。

船の沈没する時は早くて五分、遅くて八分程度と心得て貰ひたい。

救命器は食事の場合も廊下を散歩する場合も必ず携帯すること。長崎丸の場合には沈没當時我先にと近みの救命器を奪ひ、食堂から歸つた者は救命器がないので大騒ぎを演じ、それが爲めに命を失つた者もある。沈没の場合は電氣が消えて闇黒になるから、その際でも容易に救命器を着けられるやう紐を解いて用意して寝ること。

どんなに暑くとも、冬のシャツ・足袋・ズボン・洋服を着た儘我慢して寝ること。海中に入つて永く水に漬つてゐると冷えて死ぬ者がある。

ボートに乗るか海中に飛び込むかはその場合命令するから、指定した集合所に集つて沈着に行動して貰ひたい。

ボートへ乗る場合は、老人女子供を先にするから慌てないこと。

海中に飛込んでから、本船沈没の渦巻に巻込まれることがあるから、船から離れ

ることに努力し、離れたら身動きしないこと。水中に居る場合は勿論、救助船が来て引上げられてからも、眠ればその儘死ぬから、決して眠らぬやう努力すること。

軍人は長靴を穿かないこと。

婦人にして和服を着てゐる者は、必ずズボンかモンペイを穿くこと。海中に飛込んだ時は直ちに袂をちぎりとること。

夜間甲板や廊下に於て絶対に喫煙せざること。

海上は相當に荒れたが、幸にも敵潜水艦の來襲もない。櫻井事務長の嚴命によりすつかり身仕度した儘寝たので、汗だく／＼の一夜を明かした。船暈の客もあつたが、一行は大いに元氣で張切つてゐた。

長崎を出て、たつた一晚船に寝ると上海に着くのであるから、長崎地方の人が、東京よりも多く上海に關係をもつのも當然のことであらう。

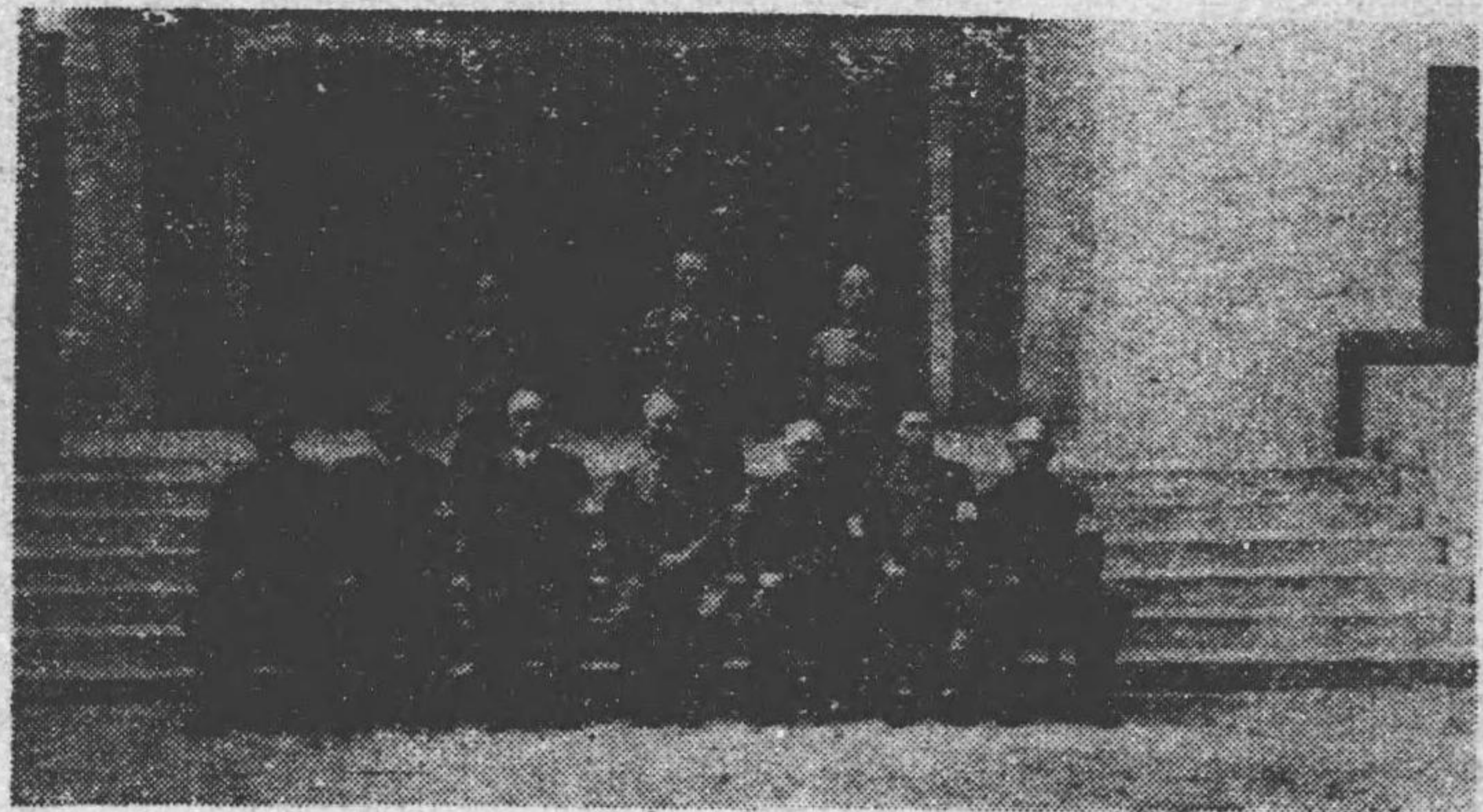
## 大東亞戦争後の上海

揚子江は川幅があまり広くないのでどこからか海やら川やら一寸見當がつかねる。水の色が濁つて來たので江内に入つたのだと教へられる。遙か水平線上の川岸の大木が、恰も草のやうに小さく見える。

揚子江を暫らく遡航してから、上海事變當時の古戰場たる吳淞<sup>ウソウ</sup> 臺のある吳淞から支流の黄浦江に入るのであるが、黄浦江ですらも一千二三百米の川幅がある。

揚子江へ入つてから遡航すること二時間にして、午後三時四十分上海の滬山碼頭<sup>ウイソウマツド</sup>に到着した。軍から差廻しの自動車に迎へられ、總領事館を訪れて堀内公使に挨拶し、日華親善のため渡支中の平沼・永井・有田全權等の宿舍アスターハウスに名刺を出して敬意を表し、閔行路の萬歲館といふ旅館に泊る。

上海は人口三百五十萬（日本人十二萬）といはれてゐるが、事實は人口五百萬だらうといはれてゐる。流石世界的の都市だけに、その混雜ぶりは大變なものだ。



澤田將軍を心中に記念撮影（海上にて）

廿二日は午前九時から慰問に廻つた。先づ第一番に行つたのが憲兵隊司令部で、司令官から憲兵の使命に就いて色々の話を承つた。憲兵といふものは、兵隊の警察官のやうに思つてゐたが、今日の憲兵といふものは左様なものではなく、重大な使命があるといふ話であつた。先づ第一線に出ては敵中に入つて敵状を探知して作戦を容易ならしめるといふ仕事もあり、市内にあつては治安工作といふ大きな仕事もあるとのことだ。治安工作上最も大切なことは支那民衆の協力といふことで、支那民衆を自覺せしめ、かれらの心からの協力なくして眞の治安は維持されないのである。幸にもわが憲兵隊の寧日な



き活動によつて、内地の隣組式に下から盛上る力を防犯防空等に訓練したので、今では相當に大きな効果をあげてゐるといふ。

十二月八日以前には例のガーデンブリッチを境として租界に手が届かなかつたが大東亞戦争勃發と共に租界が我方の手に歸したので、治安肅清工作區域は擴大する一方で、従つて任務も亦重大になつたが、租界が我方の支配下に屬したことは、非常に肅清工作の實績を挙げ易くなつたとのこのだ。

上海在住同胞崇敬の的たる上海神社に參拜してから上海警備隊を慰問し、更に陸軍病院を慰問したが、この病院には弘前出身の石田桂之輔といふ衛生大尉がゐて、始めて郷里の人と遇つて懐しく話合つた。

西本願寺内の遺骨安置所を拜禮、護國の忠靈に感謝の默禱を捧げ、午後は更に別の陸軍病院を慰問した。

次いで第二〇〇〇〇部隊に到れば、こゝには元三本木農學校の教官だつた北野九郎少佐が高級副官をしてゐたので、久しぶりで三本木の話が出て、三本木高等女學

校から依托された慰問文を始めて手渡した。

更にもう一ヶ所の陸軍病院を慰問したが、病院は何れも設備が完全であるし、軍の醫術が進歩發達してゐるので、頗る心強く感じたことであつた。

どこの病院でも軽い傷病患者を一堂に集めて慰問したのであるが、その際の清水團長の挨拶は「諸君は名譽の戦傷或は不幸病魔に襲はれてこゝに收容されたが、一日も早く御全快なされることを祈る」と冒頭して、國內の近情を詳しく語るのが常だつた。

今年は十年この方會てない暑熱にも拘らず、役人は暑休を廢して、開襟シャツ一つで勤務したことや、學生は暑休を半減して勤勞奉仕をしたこと、中小商工業者は國家の統制方針に隨順して進んで軍需工業方面に轉業したこと、或は近年にない農作物の豊作だつたこと、近年許されなかつた盆踊りの如きも今年は許されて、鎮守の森や寺の庭などで盛んに踊られてゐるといふやうな、銃後の近況をさつくばらんに語り、決して銃後のことには御懸念なく療養につとめ、一日も早く全快されん

ことを祈るといふ清水團長の話には涙がこもつてゐた。

### 性格風貌一變の上海

上海は華區と租界とに分れてゐるが、租界には二十二平方キロの共同租界と十平方キロのフランス租界とがある。

共同租界は大東亞戰爭勃發直前までは、蘇州河以北の地域を除いて、英米及び伊太利の警備下にあつたのであるが、昭和十六年秋米國マリンの撤退を最後の弔鐘として、今やいたる處皇軍警備下にある。

阿片戰爭に敗れた支那が、南京條約によつて開港して以來今日に至る一世紀、英米の半植民地となつた上海、東亞侵略の根據地の觀を呈してゐた上海も、十二月八日、一瞬にしてその性格を一變したのである。

蘇州河以北の共同租界は所謂虹口で、こゝは日本人密集地帯であるため、兩度の事變で相當の被害をうけ、いたる處に當時の面影を偲ぶ戦跡がある。

虹口の東に連る地域を揚樹浦ヤシゴノウラといひ、こゝは工場地帯であるが、今や世界の各地から亡命せるユダヤ人が、この邊にユダヤ人部落を作つてゐる。

共同租界の中心は蘇州河以南にあり、こゝは上海における丸ノ内といふ觀を呈してゐるが、共同租界の行政機關である工部局はこゝの中心にある。

正金銀行支店を訪れてから工部局に往き、岡崎參事會長に挨拶した。岡崎氏は曾て私が南支方面に行つたとき、領事として廣東にゐた人であるが、大東亞戰爭勃發と共に共同租界も我方の手に歸したので、こゝに乗込んで治安工作に努力してゐるのである。治安工作に關して種々苦心談を聞いた後、工部局警察署を訪ねた。こゝの渡總監は元青森縣の總務部長をした人であるから、大變懐しく話合ふことが出来ることを期待してゐたが、あひにく渡總監は不在であつた。

次いで大陸新報と上海毎日の兩新聞社を訪問して日程を終り、二十三日は上海陸戦隊が火蓋を切つた八字橋の激戦地を視察してから、廣中海軍表忠塔を參拜し、その足で〇部隊本部を慰問した。中支軍司令官並に參謀の〇〇少將と逢ひ、浙贛作戰チンカンの

の内容に就いて話を聞いた。

浙贛作戦は極めて大がかりな作戦計畫だ。金華附近を始め、衢州・蘭溪・玉山等に飛行場が完成し、米國機の東京空襲の基地、或は逃げ込む場所に當てられた。そこで皇軍の手によつて之を破壊するのがその目的だ。この作戦は充分その目的を達成することが出来たが、更に副産物として大きな收穫があつた。それは螢石の生産地帯を占領したことだ。螢石は飛行機工業資材として必要缺くべからざるものであるから、之を手に入れたことの効果は蓋し偉大なものといへるであらう。

だが、浙贛作戦における皇軍の苦勞は並大抵のものではなかつた。この作戦に着手してから、一ヶ月も雨が降り續いて至る處洪水となり、輸送路が杜絶したから肝心の食糧補給がなくなつた。第一線部隊は文字通り草根本皮を食糧としなければならぬ。部隊長の如きも、味噌汁の中へ朝顔の蔓まで入れて喰べたといふ話であつた。然るに、天は聖戦に出帥の皇軍を殺すことなく、幸にも敵兵を驅逐して、彼等がふんだんに食糧を貯藏せる地帯を占領した。米もある、砂糖もある。今度は前線か

ら後方へ食糧を逆送するといふ珍風景を呈するやうになつた。

又、この洪水に悩んだ皇軍は、傷病兵をやむなく飛行機によつて後送した。然るに、この咄嗟の奇智による飛行機使用が、却つて治療手當を速やかならしむるといふ好結果を示し、軍醫術上重大な貢献をなしたといふことであつた。この作戦において酒井部隊長の戦死は惜しみても餘りあることだが、これによつて、米國空軍が日本本土空襲の計畫は完全に破壊することが出来た。

浙贛作戦に出た第一線部隊は目下續々引揚中だといふ話であつたが、我々一行はこの作戦についての話を聞いてから、上海事變の戦跡を視察し、現地に就いて案内の將校から種々説明を聞いた。

### 戦争と角力に強い青森兵

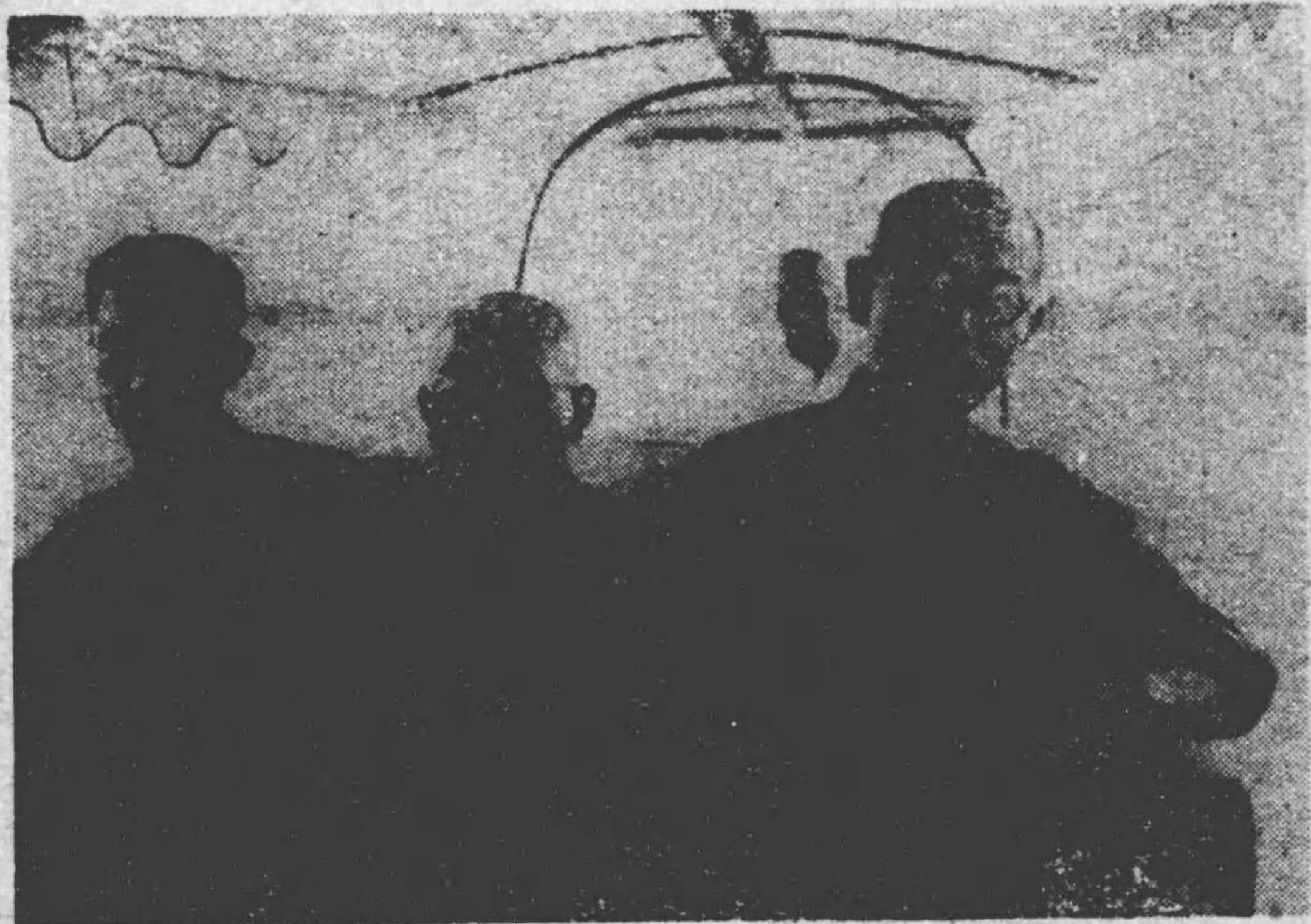
次いで軍報道部を慰問し、午後は東洋一の稱ある内外綿株式會社の工場を視察した。事變以來棉が減産のため、一工場だけは休業してゐるが、それでも現在一萬五

千人の職工を使用してゐる。その中には四千人の日本人もゐるといふ。この工場では、山と積込まれる原棉を洗滌して忽ち糸に紡ぎ、何千臺といふ機械でどん／＼織る。若しヲサが一本でも切れ、ばピタリと機械が停止し、直れば再び一齊に動くといふ仕掛けになつてゐる。かくして太物になつたものは染める方の工場へ廻り、染め上つたものが荷造りされて送り出されるのである。私は之を見て、内地の百姓と學生にだけなりともせめて木綿物を着せてやりたいといふ氣で一ばいだつた。

午後七時には中支軍司令官の招待に臨んだが、肉類・魚類・果物等あらゆる珍らしい御馳走の盛澤山なのに驚いた。

二十四日には午前十時北站停車場を出發し、坦々たる平野を走る急行列車で、午後一時五十分杭州へ到着した。沿線には國民政府の兵隊が警備してゐる。

杭州では○部隊の古川少尉の出迎へを受け、華中鐵道の經營する杭州第一のホテル西冷飯店に宿泊した。西冷飯店は高臺にあつて眺望絶佳、有名な遊覽地西湖の風景が手にとるやうだ。



西湖上遊覽船にて(向つて右より)  
(長井代士・小笠原代士・山口代士)

恰も中秋の明月、月影湖上に映じて異郷の空に旅情を慰めるに足るものがあつた。

二十五日は部隊本部に部隊を慰問し、二ヶ所の陸軍病院を慰問した。

杭州の町で突然三本木出身の佐々木忠七郎上等兵と邂逅した。佐々木上等兵は僕の姿を見つけて飛んで来たのであるが、彼の話によると、矢張り三本木出身の川村義美といふ兵隊もゐるが、目下歩哨勤務のため来られないといふことであつた。又、慰問品では何が一番嬉しいかと聞い

たら、品物は大きくて不自由もないから、地方の事情を書いた手紙が一番嬉しいとのことであつた。そこで早速こゝでも三本木高女の慰問文を手渡したら非常な喜びだつた。この女學生の慰問文は郷土の色々なことを知らせてあるので、どんなに懐しく讀まれたか知れないのである。

佐々木上等兵の屬する部隊は、青森縣出身は僅か二三人で、あとは全部關西の方の兵隊であるから、奇轉を利かすことや、口先きのことでは關西人には負けるが、角力では十和田出身の太田といふ兵隊が五人抜に優勝し、佐々木君が個人優勝といふ風で、文化にあぐれ、素朴な生活に馴れてゐる青森健兒が、戦争と角力の力競べでは絶対に負けないので、部隊では青森萬歳の氣を吐いてゐるとのことだつた。

### 第一線から引揚兵を迎ふ

晝飯をたべるために、大和樓といふ純粹の支那料理屋へ入つた。言葉が殆んど通じないが、晝食代百兩だといふ。餘り高いから負けろと交渉したが容易に負けない

どころか三百兩に吊上げやうとする。仕方ないから結局喰へることになつたが、支那金の百兩は日本金軍票の十八圓であるから、この勘定で承諾したのに、向ふは日本金百圓で取らうとするので、押問答して、結局支那金百圓といふことになつた。料理は頗る美味だつたが、丸の儘の鶏の足などが盛られたのには閉口した。

抗州は人口五十萬、日本人は三千人居り、こゝは約三千年來の古都として知られ現在は浙江省政府の所在地となつてゐる。曾て蔣政權のドル箱たりし浙江財閥の根元地である。従つて蔣介石始め支那要人の別邸が多く、見晴しのよい高臺には堂々たる邸宅が並んでゐる。

抗州には三本木の上北病院にゐた橋金之助君も奏任待遇の軍屬として此處に居りいろいろと世話して呉れたのは嬉しかつた。又、特務機關の情報部主任西村勝一君は八戸市出身であつた。

抗州灣における敵前上陸の話などを聞いてから淨慈寺を視察した。

この寺は西湖の北岸にあり、往昔、弘法大師が佛道探究に渡つた時、こゝに杖を

止めたといふ由緒ある處である。寺の裏には往年の日本僧侶の墓碑が今尚三十餘基  
残存してゐるとのことだ。

淨慈寺の裏奥は高い丘陵になつてゐて、この山には近代的防空壕が築設されてゐ  
た。電氣・電話は勿論、部隊長室などもあつて、その設備の完備してゐるのには驚  
いた。

特に抗州で報告したいことは、二三ヶ月も戦闘せる第一線部隊が引揚げて來たの  
を迎ふることが出來たことだ。

軍服は何れもボロ／＼で、戦闘の合間に、兵隊さん自身が色とりどりの布切を繼  
ぎ縫ひしたものを着てゐる。親子でも兄弟でも、どれが伴か弟かと、その判別に苦  
しむ程人相が變つてゐる。戦友の遺骨を首に吊つてゐる兵士も少くない。我等は慰  
むる言葉もなく、たゞ手を合はして拜むより仕方がない。涙なくしてこの行列を迎  
へることは出來なかつた。

行列の後には浮虜が続いてゐる。これがまた大變だ。何れも大荷物を背負つて百

鬼夜行の姿だ。十五六の少年も交つてゐる。

私はこの行列を見て、憐れ味を催す前に、「石に噛りついても戦争に負けたくな  
さ」といふ氣持で一ばいだつた。

氣の毒なことには、切角抗州まで引揚げて來たのに、戦闘に疲れ、行軍に疲れた  
之等の部隊を迎ふる抗州市街にはコレラ患者があるといふので、市外に野營しなけ  
ればならぬといふ話である。

### 支那人の清郷工作

二十六日は朝の八時半に抗州を出發、十時五十分嘉興に到着した。嘉興は人口六  
萬（日本人一千人）で、こゝでは特殊病院を慰問してから零時半嘉興驛出發、午後  
三時四十五分蘇州に到着した。

直ちに○部隊を慰問し、特務機關の某中佐から清郷工作についての説明を聞いた。  
清郷工作といふのは所謂治安工作で、江蘇省首席李士群が専ら之に力瘤を入れて

やつてゐるとのことである。

李士群はモスコウの共産大學を卒業後重慶政府の要職にあつたが、汪精衛は彼の才幹を見抜いて腹臣とし、汪が重慶を脱出したときは、李も亦之に随伴してハノイに通れ、爾來汪精衛の股肱として今日に至つてゐる。

昨年清郷工作の計畫を樹立したとき、汪はその委員長となり、李を秘書長としてその全權を委任したのである。

江蘇省は人口三千五百萬あり、物資も豊富で中支の心臓部ともいはれ、省政廳は人口三十五萬（日本人二千三百人）の蘇州にあり、當年三十四歳の李士群が江蘇市政府首席兼清郷工作委員會秘書長として頑張つてゐるのである。

清郷工作は軍事、治安維持に關しては皇軍の力によつて之を行ひ、政治方面、即ち民衆一般に對する諸施設は國民政府が行つてゐる。

昨年七月より江蘇省蘇州附近から開始し、一年後には江蘇省の三分の一及び浙江省の一部にも及び、完成した地域は治安の確保を見るに至り、物價は安定し、農村

のめざましい復興による生産力の増大、金融機關・教育機關の施設、交通の改善等見るべきものあり、既に田賦租税の徴收に着手した地方もある。

清郷工作成れる地域には竹矢來を結ぶてゐるが、竹矢來は現在五百餘里に及んで清郷の出來た處と出來ない處とを區別し、その出入口には「實現和平地區」「努力清郷工作」「完全全面和平」などのスローガンが掲げられ、出入者の身體を檢查する若い姑娘検査員がまめ／＼しく働き、「好走罷」よろしい行け——の勘高い聲が賑やかだ。

官界の肅清工作を行つて陋習を打破するなど、李士群の業績はまさに見るべきものが多い。

晩には李公館に於ける招宴に臨んだが、司會者側からは、當の李首席のほか唐秘書長・余財政廳長・揚秘書・成中將・劉軍長等出席した。

我等の團長清水代議士が、曾て外務政務次官として南京に出張した時、大使館に於ける歓迎會に、支那人ボーイから毒酒を呑まされたことがあつた。李首席は當時

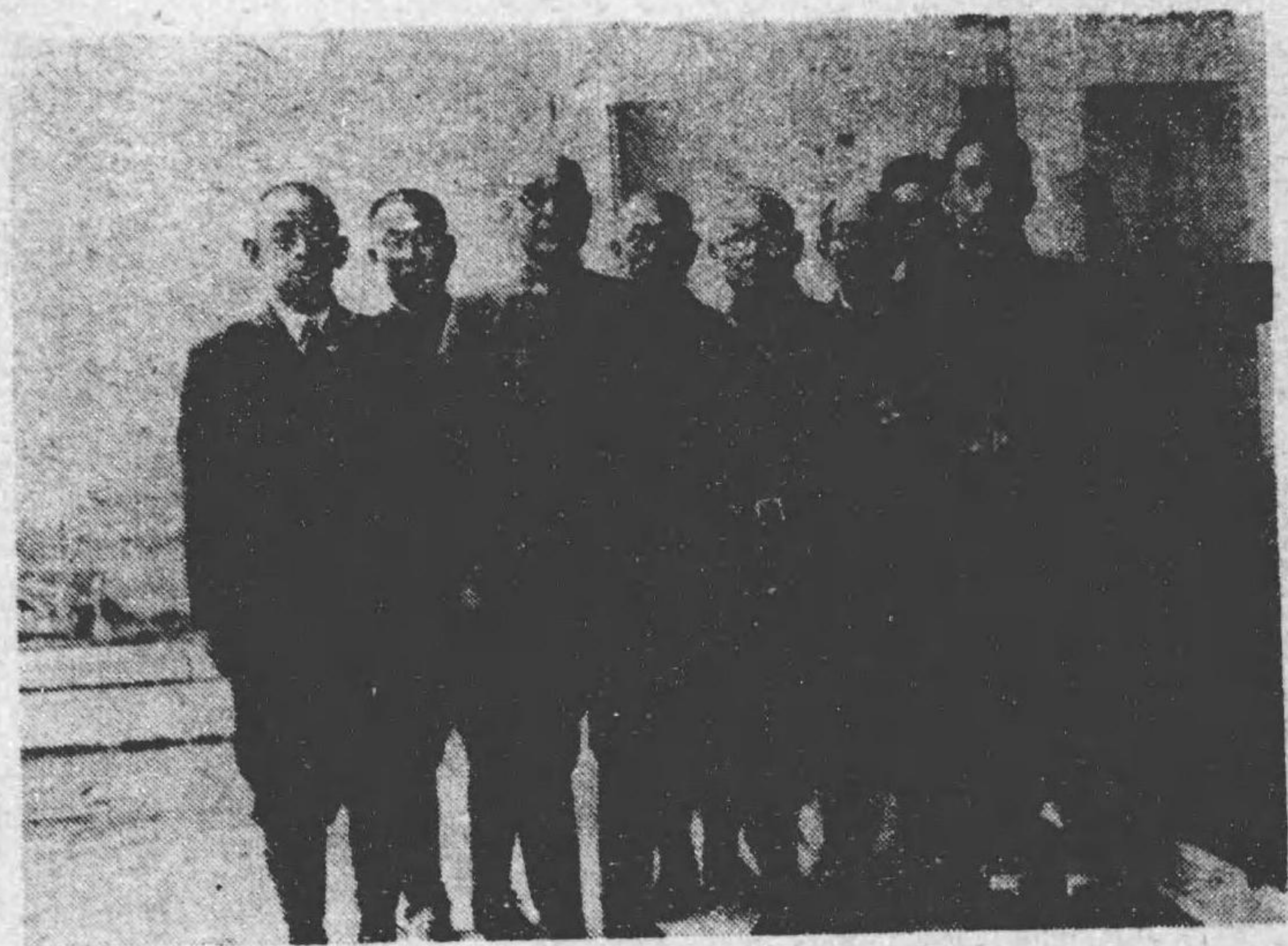
警視總監の地位にあつて此の事件を裁いたので、當時の思出話なども交された。

李公館における晩餐會は公式のため軍樂隊を出演し、支那の面白い音樂が演奏されたが、見たこともない珍しい料理には只驚くばかりであつた。

支那事變以來五ヶ年、支那人も日本及び日本人の力を見直して來たやうであるが日本人も亦支那人を見直さなければならぬと思ふ。一期二期と區分して相當成功してゐるこの清郷工作、この一步步々新秩序を建設してゆく彼等の努力たるや實に並大抵のものではないのである。

### 東洋のベニス蘇州

蘇州は山水の綜合せられた自然風景の外に、支那三千年來の歴史と數奇を極めた傳説に育ほぐまれた古都で、かの長髮賊の亂には賊將李忠王の居城となつた。後に李鴻章は自ら陣頭に立つて之を攻略したので、この戰亂によつて、往時を偲ぶ貴重な文物の大半が烏有に歸したことは、今も尙痛惜されつゝある語り草の一つである。



蘇州駐屯の長隊部と記念撮影

さりながら、大自然の恵みは聊かも變ることなく、東洋のベニスとして多くの人々の憧あこがれの的となり、抗州と共に中支における觀光都市の雙璧へびをなし、物産の豊富により、江南有數の重要都市となつてゐる。

市街は城内・城外・居留地の三區に分れ、各城門から通ずる大小の街路が交錯し、これに石造の鼓橋が架り、いはゆる姑蘇三千六百橋、吳門三百九十橋と謳うたはれた蘇州獨特の風景を呈し、名實共に水都の觀を備へてゐる。



蘇州の陥落は昭和十二年十一月十九日であつた。元來蘇州は南京防衛の第一線外廊ともいふべき主要地區であり、相當の激戦を豫想されたのであつたが、上海攻略以來破竹の勢ひをもつて眞如・南翔・崑山・太倉・常熟と江南の主要都市をまた、く間に屠つた皇軍の前には、古都蘇州も文字通り鎧袖一觸にて陥落してしまつたのである。

秋酣あきげな曉の闇を衝き、蘇州城壁目ざして進んだ我が軍の進撃があまりに迅速だつたため、守備の支那軍は折からの雨に雨衣に身を包んだ日本軍を、支那軍が退却して來たものと誤解し、日本軍の隊列に加つて平氣で行軍してゐたものが多數あり、城内の守備兵も道を開いて迎へるといふ有様だつた由。かくて蘇州は支那軍の知らぬ間に占領してしまひ、我が富士井部隊の奇襲によつて城壁の一廓を占據したのが十九日の午前六時半、同九時には早くも堂々と入城式を舉行したといふ話である。従つて、江南に名だゝる観光都市も戦火に破壊されることなかつた譯である。我々はその夜繁廼家に宿泊し、二十七日は有名な虎邱山、寒山寺等を見學した。

寒山寺は「月落烏啼霜滿天、江楓漁火對愁眠、姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到客船」の詩によつて我國にもあまねく知られ、伊藤博文公寄贈の梵鐘は、屢々ラジオを通じ、「除夜の鐘」として全國に中繼放送されてゐる。

蘇州の陸軍病院長は曾て青森病院長を勤めた人だから舊知の間柄であつた。又、特務機關の工藤尙臣君は弘前出身であつた。

十時十三分蘇州驛を發し、午後二時半南京驛に到着した。直ちに南京第一流のホテル首都飯店に投じ、その日は休養して自由行動をとつた。首都飯店は一名メトロポリタン・ホテルともいふ。

### 徐州の戦跡を訪ふ

二十八日には正午三井物産南京支店の御手洗支店長の招待會に臨み、揚子江を横斷し、浦口驛を立つて徐州に向つた。

南京から武漢三鎮の方へ行くには、揚子江を遠く船便にて溯航しなければならず

或は飛行機によらねばならぬが、敵機の來襲があつて危険が伴ふので、最近中支軍の管轄に入つた徐州行となつたのである。但し河北では軍票不通のため、蚌埠<sup>ほうぶ</sup>で聯銀と交換しなければならなかつた。途中汽車が路線傍に轉覆してゐたが、我々の列車は午後十一時五十分無事に徐州驛に到着し、砂金少佐の出迎へを受け、直ちに鶴屋ホテルに宿泊した。曾て蔣介石が宿泊したといふ記念の部屋が其儘保存されてゐる。

二十九日は午前九時から慰問に廻り、部隊本部に〇〇部隊長を慰問し、次いで病院に行き、午後は砲兵部隊を慰問した。

こゝでは保育訓練といふものを見たが、保育訓練といふのは、弱い徴兵に對して特別訓練を施すのである。即ち甲種兵や第三乙種などいふ徴兵と一緒に訓練するのは無理があるから、甲種兵は三ヶ月で訓練する處を、特に六ヶ月訓練して、氣候風土に馴れさせると共に榮養を攝らせるのである。いざといふ場合は直ちに戦線に立つだけの教育を施すことは勿論だが、この保育訓練は大成功を収めてゐるとのことだ。



徐州駐屯部の隊長と記念撮影

徐州は江蘇省の北端に位し、省政廳のある蘇州とは甚だ遠隔の地にあつて、風俗・人情・習慣等すべて北支地方に類似してゐる。之を江蘇省が統治するには行政上不便が多いので、國民政府はこの地方を江蘇省から分離し、安徽省の一部を併せた人口一千數百萬を包含する一區劃を作り、これを蘇淮特別地區と稱し、獨立の官廳を設けて治めてゐるのである。從來こゝは北支派遣軍の管轄だったが、本年一月から中支派遣軍の

管轄に編入されたのである。

徐州の周囲は山を繞らし、

我々も雲龍山に登つて戦跡を視察したが、いかにも

「徐州へ、徐州へ」の戦鬪を偲ぶことが出来る。普通の家屋が扉をあければ中はトーチカであつたり、寺院の中が鐵筋コンクリートのトーチカであつたり、彼等がいかに早くから戦争準備してゐたかを想像するに足るであらう。

徐州は人口二十萬、戦争前には一人の邦人もゐなかつたが、今では一萬三千餘の日本人が進出してゐるこの同胞の中には四千の朝鮮人もゐるのだが、彼等の中には治安工作に妨害する不心得者があつて困つたことだといはれてゐた。

上海から南京までは見渡す限りの水田、クリークが四通八達して船で物資を運搬



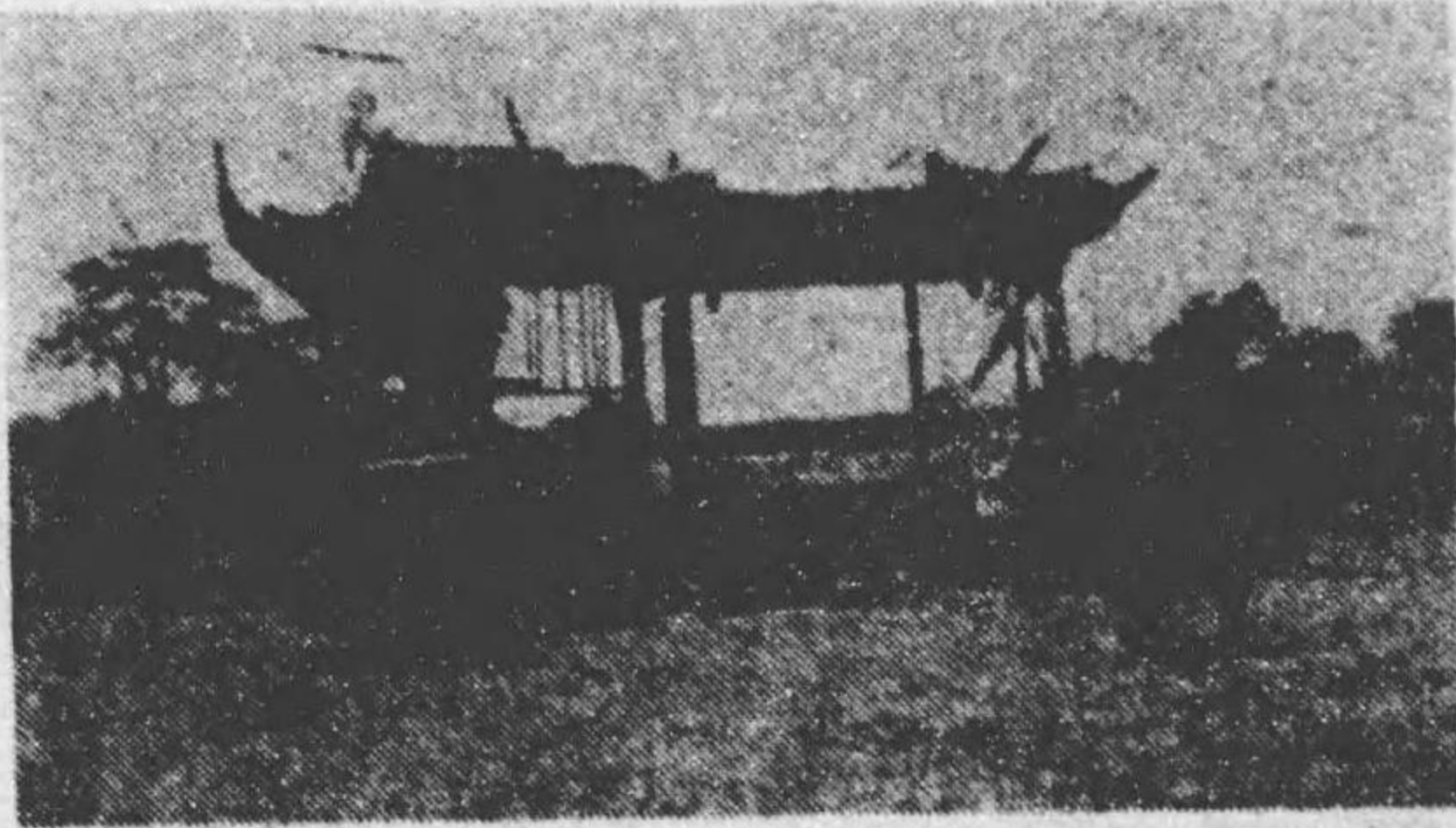
(ふ装く如の家民) カチートの州徐

する。今年は支那も大豊作で、江蘇省だけでも日本の米産の半分位あり、今度の清

郷工作の成功によつて、支那において日本軍の米は自給自足出来るといふことである。

一たび揚子江を渡つて浦口から徐州に行くに従つて水田がなくなる。之に反して見渡す限り一望千里の畑が開けてゐる。この邊は支那の穀倉といはれ、東洋のウクライナと稱されてゐる。『麥の兵隊』の歌の如く、行けども行けども麥畑といふ光景で、驢馬や馬の利用が多い。江南は船、江北は馬、南船北馬といふ言葉はこゝから發生したのである。

徐州方面では山嶽地帯から時々發砲するし、鐵道などもいたづらされ、今でも便衣隊には油斷が出来ないといふ。けれども治安は確保されてゐるから、必要以上に不安がることはない。



(州徐) カチートは賣も中の寺お

この邊は果物でも米麥でも産額豊富だ。その夜七時半、部隊長の招宴に臨んだが御馳走は何でもござれで、蜆汁まで出るといふ有様である。山東鹽と共に名高い海州鹽の産地も蘇淮地區内にある。

### 南京で汪主席と會見

三十日は午前六時出發の豫定だったが、列車の故障で三時間も遅れてしまった。我々の乗る一つ前の列車が爆撃されたといふ事情が後で判つたが、敵のゲリラ戦は仲々しつこいから、未だ油斷が出来ない状態だ。十時半徐州を立て午後五時四十分浦口に到着、直ちに南京の首都飯店に投宿した。そこには岡田議長一行が先着してゐて、同夜は議長の招宴があつた。

十一日は午前中休養して自由行動をとつた。南京は十六里四方の城壁に圍まれ人口五十萬で、一萬五千人の同胞がある。

僕は人力車に乗つて支那町に買物に出かけて行つたが、「オーイ〜」と後から追

つかけて来る兵隊がある。僕を呼ぶらしいので、車を停めてふりかへると、息せき切つて追つかけて来た兵隊は、十和田鐵道の運轉手をしてゐた附田良助といふ伍長であつた。暫らく三本木の話をしたり、共に記念寫真をとつたり、三本木高女の慰問文を渡したり、夜は宿舎に来て貰つて色々話合つたりした。

午後は總司令官畑大將を慰問した。こゝでは軍醫部長からセツカン作戦において負傷兵を飛行機で輸送したので、却つて手當が早く、何れも原隊に復し得るやうになつたのは大成功だつたといふ話を承つた。

尙、陸軍病院ではそれぞれ専門醫の達者な醫者のゐる處、内地と現地とを巧みに統制連絡をとつたので、患者の全治も早く死亡率も少くなつたといふ話を統計を示されて聞いた。現に三回も骨折した兵隊が、すつかり全快して原隊に復してゐるやうな状態にあるといふ。

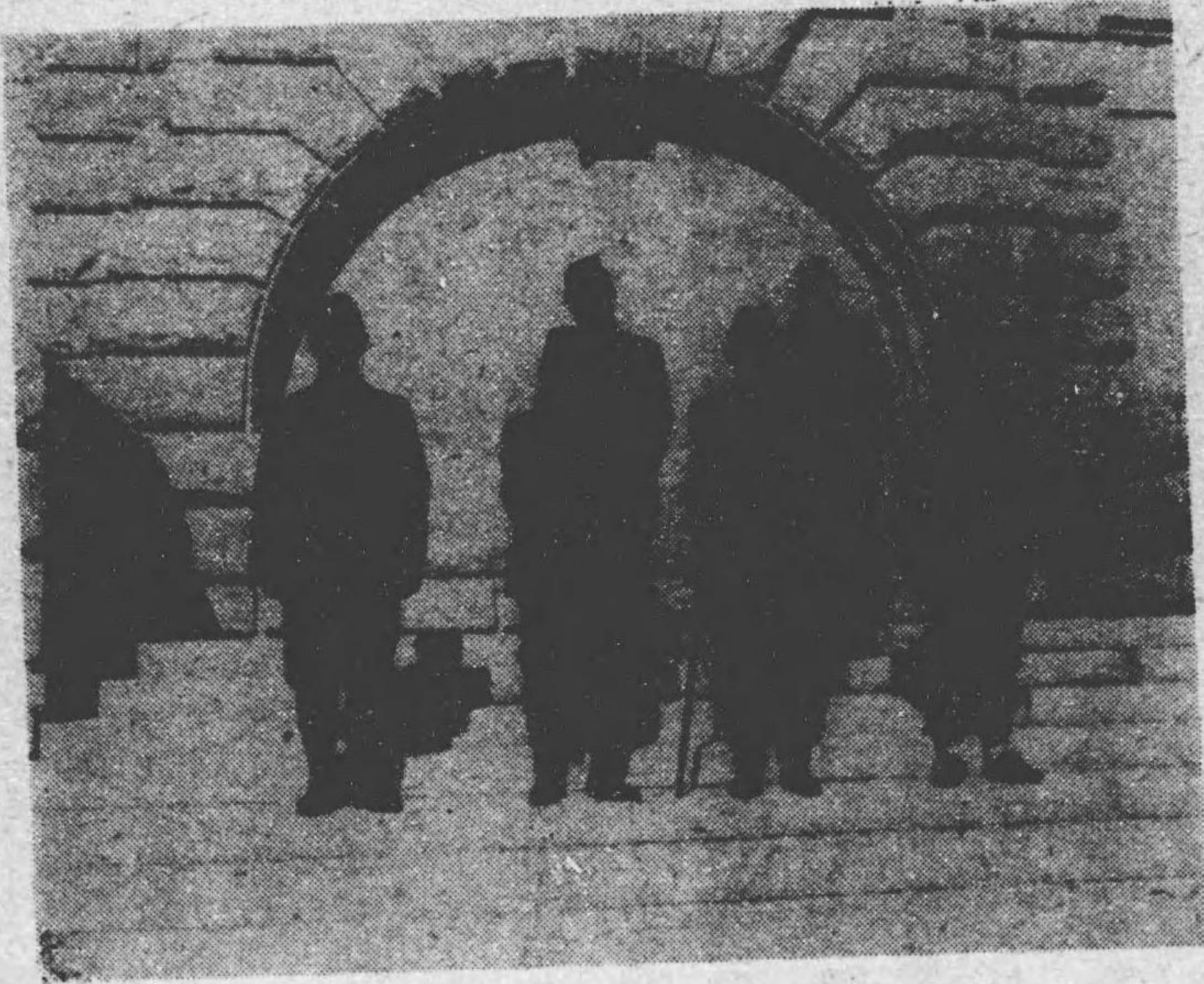
海軍武官府、臺城部隊（病院）大杉部隊（病院）等を慰問したが、病院では八戸市鮫出身の池田千松といふ兵隊と逢つた。板柳町の清野正美、八戸市湊の平野貞吉

といふ入院患者もゐたので、親しく逢つて色々郷里の方の話をした。共に元氣で間もなく原隊に復歸出来るといつてゐたから、今頃は多分原隊において再起奉公してゐることだらうと思ふ。晩は岡田議長一行と共に畑大將の招待會に臨む。

二日は九時三十分に出て南京防備司令部を慰問、次いで海軍病院・海軍警備隊・飛行隊を慰問してから大使館を訪れ、重光大使の午餐會に臨んだ。

前にも述べたごとく、會て清水團長が外務政務次官として南京へ來た時、大使館における歡迎會に毒酒事件が起つた。永らく大使館に勤務せる支那人給仕が、酒の中に毒藥を混入したのであつた。清水次官歡迎會は大騒ぎとなつたが、當の清水君は席に侍つた日本の藝妓の奇智によつて鹽湯を吞まされ、次いで卵白を吞まされて九死に一生を得たのである。鹽水を多量に吞むことは吐瀉するに役立ち、卵は毒を吸収するに効があつたのだ。

當時の支那給仕は二百圓を貰ひ、成功報酬として二千圓が懸けてあつた由であるいま再びこの大使館における歡迎會に臨んだ清水團長の感慨無量のものがあつたで



南京光華門の慰問使一行

あらうと思ふ。當時犠牲になつた宮下・船山兩書記生の殉難記念碑が、有田元外相の碑文によつて庭内に新らしく建てられてあつた。我々一行もこの記念碑を參拜し兩書記生の冥福を祈つた。

大使館では書記官から支那對策に關する話があり、次いで報導部鷹見中尉の案内により、中山陵、明考陵、光華門等の戦跡を視察し、午後五時には汪公館に汪精衛首席を訪問した。岡田

議長一行も同席し、周外交部次長の通譯で意見の交換を行つたが、汪首席は約一時間、間に亘つて大雄辯を揮ひ、大東亞共榮圈建設に關する熱意を披瀝した。それより記念撮影を行ひ、一人々々握手を交して別れた。

同夜七時から海軍警備隊司令官の招宴に臨んだが、潜水艦をあまり恐がる必要はないといふ専門的な話があつた。

南京が陥落したのは昭和十二年十二月十三日の夕刻で、世紀の驚異と歡喜の爆發による南京入城式の舉行されたのは十七日午後一時である。

南京城一番乗りした脇坂部隊、光華門の城壁に殺到するや、城壁上から猛射を浴びせる敵軍の抵抗に對し、實に三十六時間の永きに亘る肉弾戦を續け、遂に突撃路を開くに成功、時を移さず突入して城門に日章旗を立てたが、敵はその夜大逆襲を試み、手榴弾・機關銃の外催涙弾を雨注し來り、防毒面をつけて必死に應戦せる我軍も一時は苦戦に陥つた程で、凄絶鬼神を哭かしむる當時の肉弾戦は未だに忘れ得ぬところであらう。

城壁附近を徘徊すれば、雜草の中には激戦を物語る勇士の墓標が林立し、抵禦するに忍びざるものがあつた。

### 上海の種々相

三日午前九時南京驛發、午後二時十五分上海に到着、再び宿舍萬歲館に投じた。その日は休養し、翌四日も日曜日のため慰問行脚を休んで自由行動をとることになつた。

上海は恰も一日から防空演習實施中であつた。夜間にも訓練空襲警報があつたが一寸先も見えぬ暗黒街となつた。曾てこの防空訓練は仲々實施困難だつたさうだが今では日本の實力が上海在住の各國人並に支那人に徹底し、皇軍の指導よろしきを得て、今では支那人は勿論、各國人も之に進んで協力するやうになつたといふ。

上海には肉類・菓子・洋酒・木綿といふやうなものが店頭に山積して賣られてゐる。統制によつて不自由な生活を續けてゐるためか、代議士連も飢えてゐる餓鬼童

の如く、自動車を停めては菓子を買つたり洋酒を買つたりする。

何しろ支那は領土が廣いし、支那人は利害關係については極めて機敏である。だから、儲かるとなれば、喰ふものを詰めても、着るものをやめても市場に賣出すといふ。

上海あたりの物價の高いこと大變なものだ。以前には軍票十圓の靴が今では七八十圓、一反四五十錢だつた晒木綿が四五圓、洋服も一着四五百圓してゐるのだから驚かざるを得ない。値段が高いから品物が出てくる。そればかりでなく、自由經濟に疑ひが生じて來たので、今のうちに賣捌いて儲けやうとしてストック品を持出す。そこで物資が豊富に出て來るのだといふことだ。

會て上海にも低物價政策を實施したことがあるさうだ。處が、公定價の安い品物をどしどし華商が買占めて、之を高く賣つて法外の巨利を占めるといふ藝當をやり或は重慶の方まで流れるといふので、結局自由經濟に放任するより仕方ない。統制をやれば支那人に買占められて日本人は物資難に陥り、自由にすれば物資が豊富に

出廻るといふ上海の風景は何物かを示唆してゐる。然し法外に暴騰するので全然自由經濟の儘には出來ない。そこに經濟政策の悩みがあるといふことだ。

經濟問題について一言するならば、以前は日本の札ちやうを持つて行けば現地でも軍票と交換することが出來たが、今度は普通の人は二百圓の現金しか持つて行くことが出來ない。それも出發の際軍票か儲備券に交換して行かなければならぬし、儲備券百圓が日本金十八圓だから買物をするにも勘定が面倒だ。

上海は上下貴賤の別が甚だしく、一食三十圓の御馳走を喰つてゐる階級もあれば拾ひ喰ひをしてゐるルンペンも非常に多い。乞食がウヨ／＼してゐて、中には印度人の乞食もゐた。毎日市街の上で野垂れ死する者が百人位宛あり、屍體は臭氣鼻をつくが如しであるが、上海の人は別に不思議にも思つてゐないらしい。

上海には今でも五十九ヶ國の人種が住んでゐるが、面白いことには、十月一日から敵性國人は目印の赤い腕章をすることになつた。赤い腕章に黒いA字のあるのが米國人、Bが英國人、Cが和蘭人、其他はXであるが、圖々しいことには、彼等は

赤い襟や赤いバンドなどでカモフラージュして、平気で往來を歩いてゐる。恥を知る日本人には出来ない藝當だ。

### 支那で氣を吐く縣人

五日は午前九時半に宿舎を出て東本願寺の海軍の遺骨安置所を參拜し、海軍陸戰隊本部を慰問した。

十二年七月七日の事變が上海に飛火した當時、陸戰隊は僅か三千人の寡兵を以て來襲せる十萬の大軍を相手に激戦を交へたのであるが、當時の面影を語る無数の彈眼が本部の建物に残されてゐる。

次いで支那方面艦隊司令部の古賀大將を慰問し、更に海軍病院、海軍武官府等を慰問したが、武官府ではユダヤ人問題に關する話があつた。ユダヤ人問題は我國民の間に於ても大きな關心を持たれるやうになつたが、武官府の話によれば、彼等は如何に可愛がつてやつても絶対に親日にはならぬとのことである。しかれども、彼

等を單に頭から排撃するだけでも能のないことで、巧みに之が利用すべきであるとのことであつた。上海には現に多數のユダヤ人が入込んでゐるので、ユダヤ問題は切實の問題となつてゐる譯である。

この日内外綿株式會社の午餐會に招待されたが、一食何と一千二百ドルといふ豪華版には眼を丸くするより仕方なかつた。

晩は古賀大將の招宴に臨んだ。又、この日上海青森縣人會が私の爲めに歓迎會を開催して呉れた。古賀大將の招宴があつたので、時間を態々變更してまで開いて呉れたのには、流石に郷黨なる哉といふ嬉しさであつた。

上海には元青森縣購聯にゐた佐々木貞次郎君がゐた。在郷當時から努力家として知られてゐたが、上海にあつても大いに元氣で活動してゐる。

上海の青森縣人會長は狄思威路六二四に住んでゐる山田純三郎氏である。山田氏は弘前市の出身で、明治九年生れだから本年六十七歳だが、今尙豐饒たるもので、日支問題には多年の經驗と識見に物言はせて活躍されてゐる。明治三十二年、第一



同の南京同文書院（現在の東亞同文書院）學生として渡支、日露戦争當時は當時一戸旅團長の副官たりし林銑十郎將軍の下に通譯官として出征、戦後は母校に教鞭をとつてゐたが、明治四十四年故後藤新平伯が滿鐵總裁に就任當時同社へ入社した。其後四十五年十月、民國革命勃發するや之に参加し、孫文・黃興等を援けて大いに活躍するところあり、大正五年には上海民國日報社長、同十五年には江南正報社長となつた。又、同氏の令兄は孫文の第一革命に参加して、明治三十三年南支に於て戦死してゐるので、近世の支那史上に山田兄弟の名は高いのである。

山田氏は現下のわが支那對策にも重要な活躍をしてゐるのであるが、軍部方面の信頼厚く、わが郷黨のため萬丈の氣を吐いてゐられることは頼母しい限りであつた。

上海青森縣人會幹事成田義邦君も弘前出身で、月刊雜誌「上海」の編輯局長として活躍してゐる。又、同雜誌の主幹高橋大助君は曾て東京にゐた頃知合つた人である。

其他の人々も我が青森縣人がいたるところにおいて評判のよい話を聞いたのは、

私にとつては旅行中肩身の廣い思ひであつた。

### 長期戦と對支政策

上海の電車の中には「帽子に注意せよ」などいふ帖札がある。ぼやく／＼してゐると帽子まで盗られるものと見える。この頃は便衣隊のテロ事件が少くなつた由。

大東亞戦争以來、抗日勢力の據點たる租界が我方の支配下に屬したため、彼等の蠢動を許さなくなつた譯だが、いろ／＼な人種が入込んでゐるし、ルンペンも多いことだから、帽子でも眼鏡でも盗られるものと見える。

我々一行は愈々十月六日歸途につくことになつた。その二三日前、新聞で發表の通り、浮虜を滿載せる輸送船が東支那海で撃沈されたといふので、仲々うるさい敵の潜水艦を氣遣ひ乍ら歸途につく。

六日午前九時碼頭の棧橋から乗船、船は飛行機の警戒下に航行を續ける。長崎出帆當時と同様の注意を受け、萬一を慮つて緊張してゐたが、夕刻から海上荒れて浪

高く、推進器空轉して乗客の大半は船暈をなす。然れども幸にも我々一行は大いに元氣である。

一行中最も年長なのは清水團長である。一番若いのは大分縣選出の山口代議士だが、山口君は若いといつても當年五十歳。それにも拘らず口を開けば「吾々青年は……」といふので一同どつと哄笑する場面もあり、元氣當るべからざるものがあつて賑やかだ。船は七日の午後五時半無事に長崎に入港し、重き使命を果した我等一行もホツと一息、重荷を卸して解圍した。

今度の支那旅行で、私は出來得る限り多くのわが郷土の軍隊を訪ねて、親しく慰問する豫定であり、現地へ行つてもその覺悟で努力したのであつたが、何しろ自由行動をとる譯にはゆかないし、軍の計畫による日程によつて遍歴しなければならぬし、日時もないので思ふ通りにはならなかつた。上海に居ると思つた郷土兵が第一線に出て留守だつたり、或は南京の方へ移動してゐたり、行違ひもあれば間違ひもある。これらの部隊を全部廻るといふ譯にも行かぬので、慰問に洩れた部隊に對して

は、清水團長が特にラヂオを以て上海と南京で慰問の御挨拶を放送したのであつた。實際戦地の將兵が慰問を喜ぶことは想像以外で、私は前後三回に亘つて慰問旅行に出かけたが、いつも苦勞して旅行する甲斐があるといふ感激で一ぱいになる。銃後の諸君にも、せめて手紙の一本でも多く書いて、皇軍將兵の勞苦を慰めて頂きたいと思ふ。

慰問袋の中に赤い鼻緒の女下駄が入つてゐたとき、無邪氣な兵隊さん達の間に忽ち爭奪戦が展開され、水汲みに行くにもこの下駄を穿いて喜んだといふ話を聞いた慰問袋の如きも、形式一遍の月並物では面白くない。何か工夫を凝らして然るべしだと思ふ。三本木高女生の郷土便りを書いた慰問文は頗る効果的だつた。私は重いのでどうしようかと思つたが、我慢して持参したゞけのことがあつた。

### 支那に對する再檢討

清水團長は支那要人の間に知己が多いので、向ふへ行つても特別の便宜を得るこ

とが出来て嬉しかつた。且つ旅行中一度も雨に降られなかつたのも幸運だつたと思ふ。

幸運といへば、我々の乗つた神戸丸は、我々が歸つてから一ヶ月ばかり後に揚子江下流に於て衝突して沈没し、船腹の不足をかこつ今日、然もいくたの人命を失つには痛惜に堪えぬ處だが、船長も事務長も無事に救助された由。最初述べたやうに、曾て沈没せる長崎丸の事務長たりし櫻井事務長が、再び遭難して生還したのは幸運兒と言つてよからうと思ふ。

戦後の支那大陸に日本人の進出はめざましいが、支那で成功せんとするには、國威を笠に着て、ぼろい儲けの夢を見るは絶対に禁物だといふ。支那人と同格になつて働けば、日本人の方が智腦的に勝れたものがあるだけに、必ず最後の勝利を得ることが出来るが、他力本願で出かけたら失敗のもとで、結局支那人に負けることになるこのことだ。之は今後支那に行く人々の心掛くべき理念である。

支那における戦後の肅清工作といふものは容易な仕事ではなく、前に述べた江蘇



支中のクリク

一步深く突詰めて認識する必要がある。

大東亞戦勃發以來、やゝもすれば南方に眼を奪はれて支那を等閑視する向きがないでもないが、大

省あたりの清郷工作にしても、一步々々ひろげて行かなければならぬのだし、支那民衆が心から協力するのでなければその完全を期することが出来ないのである。然も支那人が日本を理解することが肝要なるは勿論だが、それがためには、日本人自

東亞戦争の南方における華々しい戦果は、支那をガツチリと抑へてゐたからに他ならないのである。支那において根を張り、幹を養つたからこそ、赫々たる南方の花が咲いたのである。然るに、大東亞戦争は之で終れりとして、安逸な日を送る者が多い。支那問題の重要性を認識することなくば、切角開いた花も、有終の美をな

すことなく、花は咲けども實は生らぬといふ結果になるのである。  
 世界はいたるところ動亂の渦中にあるが、然も戦局の相貌はいたるところ等しく  
 長期持久戦化の兆を見てゐるのである。

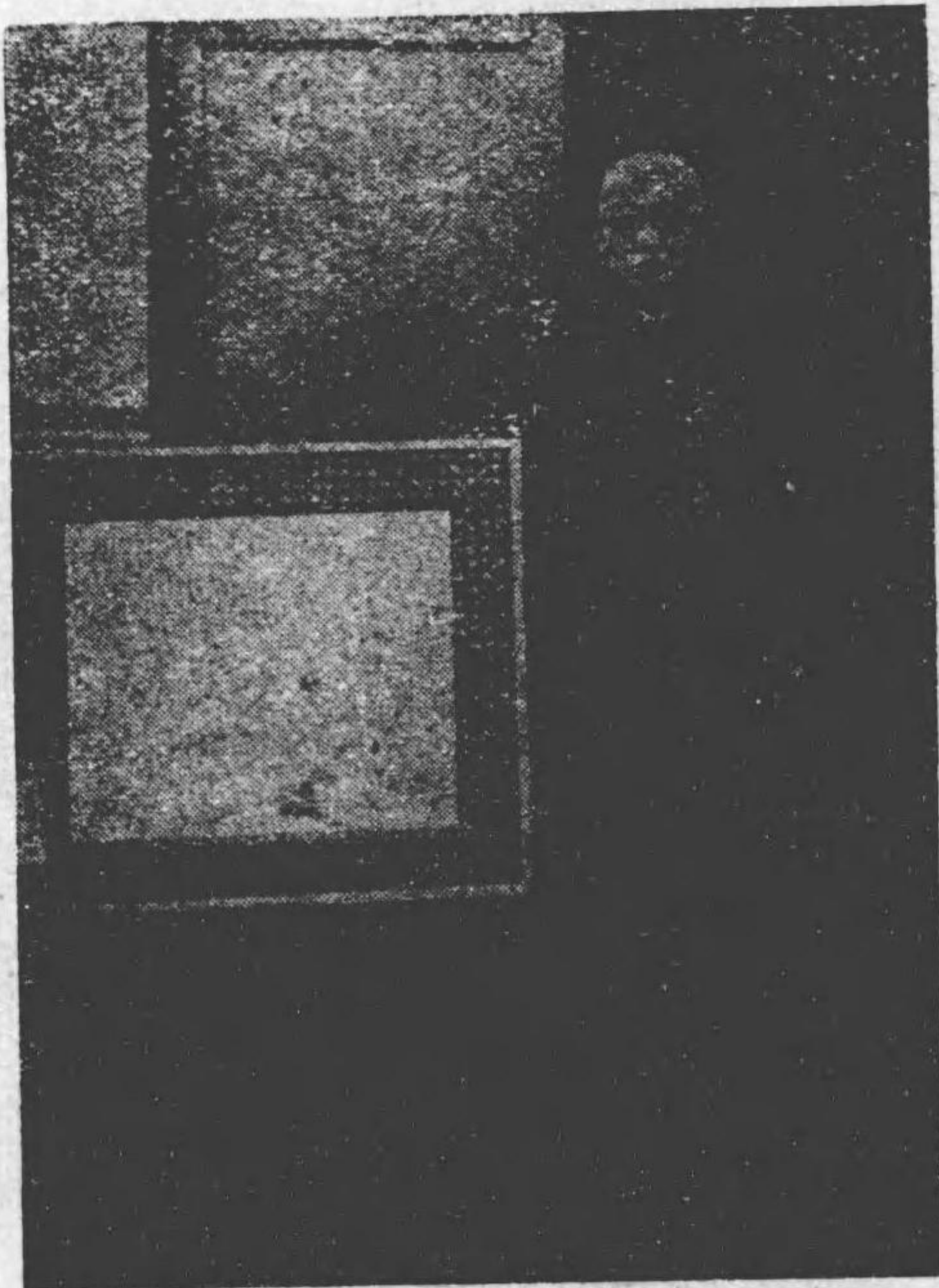


南 京 山 陵 の 慰 問 使 一 行

我等の相手敵國  
 が、今俄かに屈服  
 する様子がないば  
 かりでなく、かの  
 ソロモン海戦を見  
 ても、彼等の反撃  
 體勢は決して馬鹿

には出来ないやうである。蒋介石も米・英と策動して支那を第二戦線たらしめよう  
 としてゐる。眞の戦争は之からだといふ觀を呈してゐるのであるが、この秋にちい  
 て、大東亞建設戦に一步步前進しつゝある地味な活躍に勞苦を捧ぐる支那大陸の

皇軍將兵に一層深い感謝の心を捧げられんことを切望してやまない次第である。



櫛 引 八 幡 へ 奉 額

私は今回の中支旅行出發前  
 十和田神社、岩木山神社及  
 び三戸郡館村の櫛引八幡宮  
 等を参拜し、無事にその使  
 命を果し得るやう祈願をこ  
 めたのであるが、特に櫛引  
 八幡宮には西澤笛畝畫伯揮  
 毫の鳩額を奉納して神靈の  
 加護を念じたのである。

昭和十八年一月廿五日印刷  
昭和十八年二月十日發行

青森縣上北郡三本木町

發行人 小笠原八十美

東京市神田區美土代町一二

印刷人 佐藤清

東京市神田區美土代町一二

印刷所 亞細亞商事株式會社

終

小堀印刷所納